

## 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	櫻井秀子		
NAME	Sakurai, Hideko		

## 1. 研究課題

（和文） イスラーム・シーア派の思想的、法・政治的発展

（英文） Shia's thoughts and juridico-political development

## 2. 研究期間

2年間（2017-2018年度）

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究の背景には、イスラーム世界におけるスンニー派とシーア派の対立が、現在の世界情勢を考察する上で不可欠の要素となっているにもかかわらず、シーア派の信条の発展と政治的な発展が混同されたまま分析されるため、スンニー派の観点からみたシーア派の特異性にのみ焦点があてられる傾向にあり、両派に共通なイスラーム性の観点からシーア派が検討されることはほとんどみられないという現状があった。シーア派は、アリーに従うことを意味するが、このアリー・イブン・ターリーブは、預言者ムハンマドの従弟にして娘婿であるばかりでなく、男性の第一信者でスンニー派の正統四代目カリフという意味において、スンニー派においても初期イスラーム共同体の重要な指導者の一人と認められている。したがって本研究においては、シーア派の思想的支柱であるアリーの説話集ナフジュール＝バラガのアラビア語原典講読を行い、スンニー派カリフでもあったアリーがイスラームについてどのような見解を示していたかを明らかにすることを主な目的とした。

具体的には、アリーの説話集、ナフジュール＝バラガの翻訳を黒田壽郎氏(国際大学名誉教授)とともにを行い、その一部は『雄弁の道』（書肆心水）として出版された。その過程において、イランのナフジュール＝バラガ研究所のディーンパルヴァル師から専門知識の提供を得た。本研究を通じて、イスラームにおける現世観、共同体における抑制と互酬性などの問題、さらには現代のスンニー派とシーア派の亀裂の根源となる社会状況が明らかとなった。

（英文）

In this study, Ali's sermons in Nahujul-Balagha are translated from Arabic to Japanese in order to clarify what kind of opinions Ali had expressed as the fourth Caliph. From Ali's sermons one could understand Ali's view of this world, and also perceive the confusion in society after the death of the Prophet and identify signs of the contemporary Shia-Sunni sect division.